

株式会社三祥印刷

世界に先駆けてH・UV搭載リスロンGX44RP導入。 四六全判両面機の増設で、他社との差別化を図る。



代表取締役社長
金澤 嗣浩氏

「印刷は製造業。製造業は結局、技術力」との信念を掲げ、技術力強化のために設備投資を進める。

1977年、尙三祥製版を設立し、刷版専業として創業した三祥グループは、今年40周年を迎える。製版、印刷、不動産管理など部門ごとにグループ会社を立ち上げており、この内、印刷部門を担うのが株式会社三祥印刷だ。同社は、大手印刷会社や同業他社の印刷の請け負いに徹し、業績を伸ばしている。昨年末に、H・UV搭載リスロンGX44RP（四六全判表5色/裏4色両面オフセット枚葉印刷機）を導入、今年7月にもリスロンGX44（四六全判5色オフセット枚葉機）を増設している。四六全判機への投資を積極的に進める狙いなどについて、金澤嗣浩社長にお聞きした。

四六全判機は今後、競争力の要になる

「技術による前進」をキャッチフレーズに最新鋭の印刷機の設備を進める尙三祥印刷。昨年末には、H・UV搭載リスロンGX44RPを世界で初めて導入した。その背景には、四六全判機が今後、競争力の要になるという、金澤社長の先見がある。「弊社は、刷版焼きの会社から始まりました。PS版が登場したことで、印刷会社の内製化が進むと考え、印刷機を導入し、下請けを開始。付き合いのあった印刷会社から仕事を引き受けること

でスタートした印刷業は、短納期でも品質の高い仕事をする事で信頼を集め、次第に大手印刷会社からも依頼されるようになりました」

変化をいち早くつかみ設備投資を進めていった同社。現在は、四六全判機から菊半裁機まで、片面機、両面機、油性機、H・UV機を取り揃え、薄紙・厚紙問わず、幅広く何でも受けられる体制を整備している。印刷機の中でも、金澤社長が熱いままざしを向けているのが、四六全判機だ。

「菊全判機は世の中に台数が多いので、単価勝負に陥りやすい面がありま

す。しかし、四六全判機はまだ台数が少なく、希少価値があるため単価勝負になりにくい。また、スペースの関係で導入したくても入れられない会社も多く、四六全判をやりたくてもなかなかやれない状況にあります。そのような中で四六全判ができるというのは、それがそのまま競争力につながると考えています」

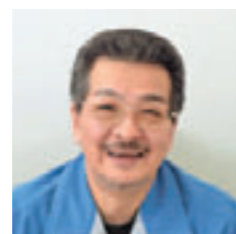
総合印刷会社として、お客様の要望に応え業績を伸ばしてきた同社。四六全判機は、大型サイズの印刷に対応するだけでなく、多丁付けによる効率化も期待でき、品質と料金のバランスを、一層高めている。

H・UV搭載リスロンGX44RP 世界初、1号機を導入

H・UV搭載リスロンGX44RPの導入は、ただの「最新鋭機の導入」ではなく、世界全体で1号機となった。



取締役会長
金澤 功氏
「小森会長には無理を言って四六全判の両面機を作っていたのだが、即戦力としてフル稼働しており、感謝しています」



川口工場工場長
大場 幸廣氏
「機械の完成度が非常に高い。メンテナンスの時間などの情報が大幅面で確認でき、生産率が上がりました」



川口工場
吉田 裕介氏
「PQA-Sで印刷中に検査と濃度管理が行え、お客様への品質保証ができるようになりました」



川口工場
鈴木 肇氏
「H・UVなので、裏付きの心配がなく、品質と生産性の向上に専念できます」

「弊社がH・UV機を最初に入れたのは、2012年です。リスロンS44でした。当時はまだH・UV機は広まっておらず、弊社のオペレーターもやったことがありませんでした。短納期化へのご要望が高まる中、何とかその声に応えたいという思いでした」

実際に、速乾・短納期対応は他社への差別化になり、業績アップへの足掛かりになった。長い歴史の中で、プリプレスからプレスまでの管理体制を確立していた。そんな中、油性からUVにすることへの抵抗はなかったのだろうか。

「導入見学会に参加し、品質には問題がないと感じました。実際に導入しても乾きにくい紙をH・UVで印刷し、上ガリを油性で行ってもクレームなど全く問題ありませんでした。粉を使わないので、油性での後刷りも何の問題もありません。裏付きの心配もなく、品質と生産性の向上につながっています」

オペレーターへの不安もなかったようだ。デリバリーで紙が排紙されるタイミングや粉を吹く量、板取りの必要・不要、パレットの枚数などを、そのつど考えることなく進められるため、印刷機の回転数を上げることができると、機長も喜んでいてという。H・UV搭載リスロンGX44RPはすでに、1月12日から24時間体制で稼働を開始しており、6月にはリスロンGX44RPの内覧会を実施し、多くの取引先やお客様にお披露目した。また、7月には5台目のH・UV機として、四六全判機であるリスロンGX44を導入した。

KP・コネクトでH・UV機をつないで生産力をアップ

リスロンGX44に加え、現在、10台の印刷機の全てがKOMORI機だ。そのうちの9台が「KP・コネクト」でつながり、生産力を向上させている。

「工場が広く、なおかつ事務所は別の階にあります。現場の階に降りずにリアルタイムで進行度合いなどを把握でき、迅速に指示を出すことができるようになりました。例えば、入っている仕事の進行が予定より早く進んでいるのであれば、繁忙期であれ、さらに仕事を入れるよう営業に指示が出せます。また、作業が止まっているときも、何が原因で止まっているかがすぐに分かります」

さらに金澤社長は「KP・コネクトでさまざまな印刷データが蓄積でき、何を改善すればよいかの分析が可能となりました。PDC・SIXで取得した濃度数値の蓄積も、顧客への「目で見る品質保証」になっており、お客様からの信頼がさらに高まったと実感しています」

今後のビジョンについてお聞きした。「3年ごとに区切り、経営の計画を立てています。今後は、四六全判機の台数をさらに増やしていくことを考えており、次は、東京オリエンピック・パラリンピック前後を視野に入れています。これからは、四六全判の費用対効果を見ながら、どのように印刷機を生かしていくかを考えていきたいです」

金澤社長の視線は将来を見据えている。

右：6月に多くの取引先を招待して開催したリスロンGX44RPの内覧会。デモを通してお客様の信頼感をさらに高める実機見学となった。
左：H・UV搭載リスロンGX44RP、世界初の1号機。



TOKYO



本社 / 東京都荒川区荒川5-31-8 三祥本社ビル
川口工場 / 埼玉県川口市赤井2-14-8
http://www.sansho-corp.com/
TEL / 03-3810-1821

